

消化器内科



消化器科内科医長
菊地 達也

診療内容と実績

■肝胆膵

- 肝臓癌：肝動脈塞栓術, PEIT, ラジオ波焼灼療法, 動注化学療法
- 慢性肝炎：PEGインターフェロン・リバビリン併用療法, ラミブジン・アデフォビル等の抗ウイルス療法
- 胆石症, AOSC：PTGBD, PTCD, 内視鏡的乳頭切開術(EST)
- 胆道癌, 食道狭窄：バルーン拡張術, スtent留置術

■消化管

- 出血性胃・十二指腸潰瘍：内視鏡的止血術
- 早期食道癌・胃癌：内視鏡的粘膜切除術(EMR), 内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)
- 食道・胃静脈瘤：内視鏡的硬化療法(EIS), EVL, BRTO
- 大腸・胃ポリープ：内視鏡的ポリペクミー
- 術後などの消化管狭窄：バルーンやブジーを用いた拡張術
- 進行消化器癌：放射線療法, 化学療法
- 脳神経障害や神経障害で経口摂取不能状態：内視鏡的胃ろう造設術
- 潰瘍性大腸炎：白血球除去療法, レミケード

プログラムの目的と特徴

当科では上部および下部消化管, 肝臓, 膵・胆道疾患について, それぞれの専門スタッフが揃っており, 消化器疾患全般にわたる充実した研修が可能です。また, 当院では救急医療に重点が置かれており, 消化器救急医療についても習熟できる環境にあります。学術的には各種専門医等の資格取得を念頭に置き, 学会発表も積極的に行うことを目指します。

研修内容と到達目標

■短期研修

- ・腹部USや上部内視鏡および下部内視鏡検査の技術の習得
- ・消化器救急疾患への対応や重症消化器疾患の全身管理
- ・内科認定医資格取得の準備

■1年研修

- ・消化器疾患の病態を理解し, より専門的な診断法や種々の治療手技について学ぶ
- ・内視鏡的止血術やポリペクミー, 血管造影法やUS下の胆道ドレナージなどの技術習得
- ・消化器主要学会に参加し, 積極的に学会発表を行う

■2年研修

- ・過去1年間に学んだ知識や手技を再確認するとともに, より高度な内視鏡治療手技の習得に努める
- ・癌の内視鏡的切除や食道静脈瘤治療, 肝癌に対するTAEやPEITの治療を行う
- ・ERCPやEST, 胆道stent留置などを行う
- ・引き続き消化器主要学会に参加し, 積極的に学会発表を行い, 学会誌への投稿を行う